

# 下流側近接に 車道橋整備を要望

## 大石田大橋の架け替えに関する町の方針(抄)

大石田・横山地区の治水対策については、これまで、公聴会、懇話会、意見箱などを通じて多くの皆様から、貴重なご意見を頂戴してまいりました。それらの数々のご意見を考慮のうえ、治水対策事業に対する最終的な町としての考え方、取り組み方針を述べさせていただきます。

当町における治水対策事業は、国の直轄事業として、横山地区の堤防整備と、それに伴う大石田大橋の架け替えが主な内容であり、令和4年3月にその概要が示されました。

地方自治体の少子高齢化による人口減少傾向は、全国的な課題であり、当町においても例外ではありません。このような状況の中で、20戸以上の家屋移転を要する事業は、ともすれば人口減少を加速させ、町の将来をも左右しかねない重大なものであることと認識しております。しかしながら、町民の安全安心を守り続けるためには、避けることのできない絶対に必要な事業であり、災害の不安にさいなまれることのない安寧な生活基盤が確保できなければ、今後のまちづくりに対する様々な施策も、そもそも成り立つものではないとも考えております。

私は常々、町民の皆様の声を聴き、意見に耳を傾けることが政策遂行の上で、極めて重要なことと考えております。そのため、国による説明会とはまた別に、公聴会や懇話会、さらには、ご意見箱や町HPなどを通じて、町民の皆様から、数多くのご意見を頂戴してまいりました。

意見を取りまとめ整理してみますと、堤防整備事業については、おおむねご理解をいただけたものと考えております。しかしながら、大きく意見が分かれたのが、大橋の架け替え方法でありました。架け替える位置、そして車道橋か歩道橋か、様々な立場の方々から見解を示していただいたところで、そのような中、町としての判断を決定するには、大石田大橋の利用実態も必要であるとして、交通量調査も実施いたしました。その結果、一日平均1300台以上の車両の往来を確認いたしました。

方針の決定には、将来のまちづくりの方向性を定めた都市計画マスタープラン、立地適正化計画、国土強靱化計画、地域防災計画などの各種計画との整合性、高齢化社会や災害発生時への対応、さらには交通量調査の結果などを総合的に判断しました。その結果、大橋の架け替えについては、現橋から数十メートル下流付近に車道橋を整備する案を要望するという判断に至りました。今後、事業を進めていくうえでは、様々な課題が想定されますが、その一つひとつに真摯に向き合い、引き続き町民の皆様のご意見に耳を傾け、皆様の福祉向上に必ずやつなげてまいりますので、どうかご理解をお願いいたします。

令和5年5月23日

大石田町長 村岡 藤弥

※紙面構成にあたり、一部修正を加えております

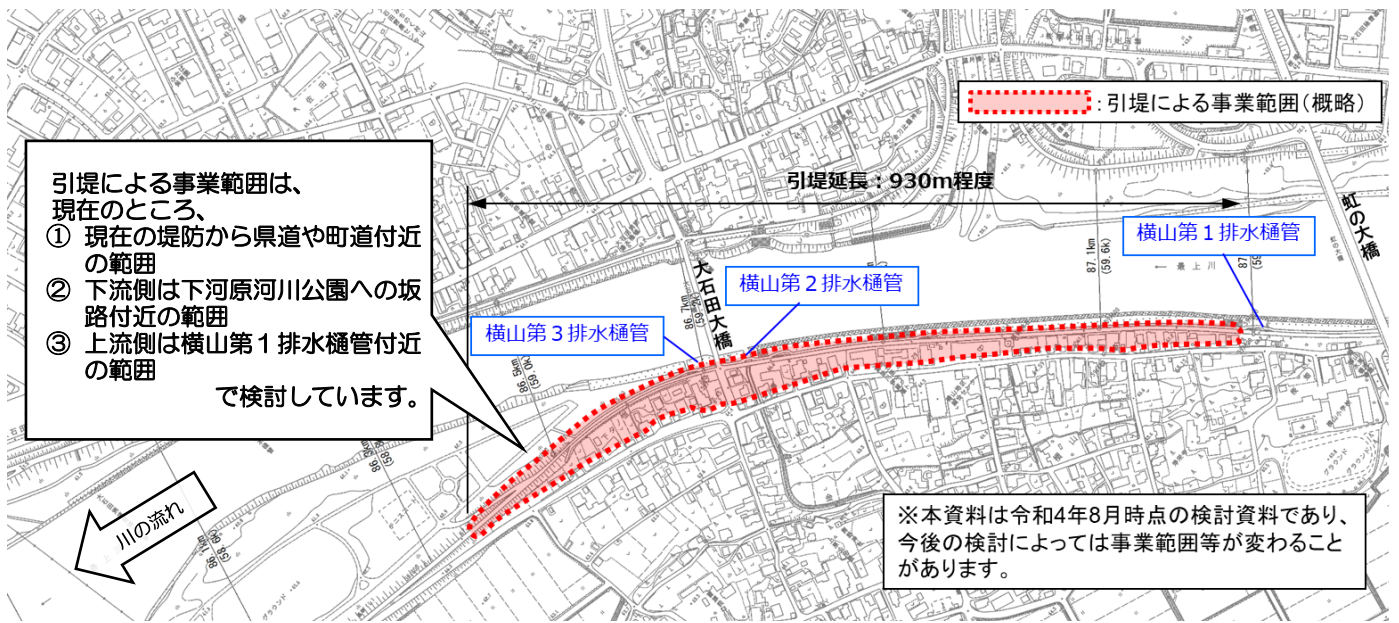
【お問い合わせ先】 大石田町緊急治水対策連絡会議 ☎ 0237-35-2111 (内線 243・244)  
大石田町建設課 治水・定住対策グループ ✉ [chisui@town.oishida.yamagata.jp](mailto:chisui@town.oishida.yamagata.jp)

大石田町公式ホームページにも治水対策事業に関する情報を掲載しています。





## 横山地区の堤防整備事業



引堤による事業範囲は、現在のところ、

- ① 現在の堤防から県道や町道付近の範囲
- ② 下流側は下河原河川公園への坂路付近の範囲
- ③ 上流側は横山第1排水樋管付近の範囲

で検討しています。

## 大石田大橋の架け替えイメージ



## 過去の説明会・公聴会等の様子

令和4年12月24日住民説明会



令和5年2月15日懇話会



令和5年5月23日方針説明会

